

2021年6月12日(土)

Line A

愛知県医師会・愛知県歯科医師会ジョイントセッション | Live配信抄録 | 愛知県医師会・愛知県歯科医師会ジョイントセッション

愛知県医師会・愛知県歯科医師会ジョイント
セッション

フレイル予防・介護予防のためのフレイル・認知機能
と口腔機能の視点

座長：武部 純（愛知学院大学歯学部有床義歯学講座）、富田 健嗣
（一般社団法人愛知県歯科医師会地域保健部）

11:20 ～ 12:20 Line A (ライブ配信)

[JS-1] 愛知県における75歳以上のフレイルリスク者の現状と
愛知県医師会の取り組み

○松浦 誠司¹（1. 公益社団法人愛知県医師会）

[JS-2] 口腔機能低下の実態と関連する諸因子

○内堀 典保¹（1. 一般社団法人愛知県歯科医師会）

[JS-Discussion] 総合討論

愛知県医師会・愛知県歯科医師会ジョイントセッション | Live配信抄録 | 愛知県医師会・愛知県歯科医師会ジョイントセッション

愛知県医師会・愛知県歯科医師会ジョイントセッション

フレイル予防・介護予防のためのフレイル・認知機能と口腔機能の視点

座長：武部 純（愛知学院大学歯学部有床義歯学講座）、富田 健嗣（一般社団法人愛知県歯科医師会地域保健部）

2021年6月12日(土) 11:20 ～ 12:20 Line A (ライブ配信)

【武部 純先生略歴】

愛知学院大学歯学部有床義歯学講座 武部 純

1990年 3月 岩手医科大学歯学部卒業
1994年 3月 岩手医科大学大学院歯学研究科修了（歯科補綴学第二専攻）
1997年 4月 岩手医科大学助手（歯学部歯科補綴学第二講座）
2000年 2月 ノースカロライナ大学チャペルヒル校 客員研究員（歯学部歯科補綴学講座）
2002年 4月 岩手医科大学嘱託講師（歯学部歯科補綴学第二講座）
2010年 4月 岩手医科大学准教授（歯学部歯科補綴学講座冠橋義歯補綴学分野）
2012年 4月 岩手医科大学准教授（歯学部補綴・インプラント学講座）
2015年 4月 愛知学院大学教授（歯学部有床義歯学講座）
2020年4月 愛知学院大学歯学部附属病院 副病院長
現在に至る

【富田 健嗣先生略歴】

富田 健嗣

一般社団法人愛知県歯科医師会地域保健部（高齢者・障がい者）

1994年 東北大学歯学部卒業
1998年 東北大学大学院歯学研究科修了（歯学博士取得）
1998年 東北大学歯学部附属病院医員
1999年 名古屋市東区にて勤務
2001年 名古屋市東区にて開業
2005年 名古屋市東区歯科医師会理事
2007年 愛知県歯科医師会地域保健部部員
2016年 愛知学院大学歯学部在宅歯科医療学寄附講座非常勤講師
2017年 愛知県歯科医師会地域保健部次長
2020年 愛知学院大学歯学部高齢者・在宅歯科医療学講座非常勤講師
現在に至る

日本老年歯科医学会 代議員・専門医

日本摂食嚥下リハビリテーション学会 認定士

【講演要旨】

我が国は世界に先駆けて超高齢社会に突入し、健康寿命延伸への対応が急務である。その目標達成のため限られた財源の中、良質な医療・介護を提供することが求められている。本セッションでは、愛知県医師会と愛知県歯科医師会が独自に取り組んでいる特色のある事業を紹介し、人生100年時代に向けた、フレイル予防・介護予防のためのフレイル・認知機能と口腔機能の視点から、医科歯科連携の共通項を探る議論の場としたい。

【このセッションに参加すると】

・我が国の超高齢社会の状況を知ることができます。

- ・愛知県における医師会・歯科医師会の取組を知ることができます。
 - ・フレイル予防・介護予防のためのフレイル・認知機能と口腔機能の関わりについて知ることができます。
-

- [JS-1] 愛知県における75歳以上のフレイルリスク者の現状と愛知県医師会の
 取り組み
 ○松浦 誠司¹（1. 公益社団法人愛知県医師会）
- [JS-2] 口腔機能低下の実態と関連する諸因子
 ○内堀 典保¹（1. 一般社団法人愛知県歯科医師会）
- [JS-Discussion] 総合討論

(2021年6月12日(土) 11:20 ~ 12:20 Line A)

[JS-1] 愛知県における75歳以上のフレイルリスク者の現状と愛知県医師会の取り組み

○松浦 誠司¹ (1. 公益社団法人愛知県医師会)

【略歴】

1988年 名古屋市立大学医学部卒業
1988年 名古屋市立大学病院 臨床研修医
1990年 名古屋市立東市民病院 脳神経外科
1991年 名古屋鉄道健康保険組合名鉄病院 脳神経外科
1993年 名古屋市立大学医学部 脳神経外科
2002年 松浦医院開業
2010年 社団法人東名古屋医師会 理事
2018年 一般社団法人東名古屋医師会 副会長
2020年 公益社団法人愛知県医師会 理事

近い将来、介護が必要となる危険度の高い高齢者を抽出するため、2020年から全国の市町村で75歳以上を対象に、長寿（後期高齢者）医療健康診査（以下、「長寿健康診査」という。）、いわゆるフレイル健診が始まった。健診内で使用する質問票は、心身の健康状態、食習慣、口腔機能、体重変化、運動・転倒、認知機能、喫煙、社会参加、ソーシャルサポートに関する項目で構成されている。

今回、愛知県下各市町村（COVID-19の影響で実施できなかった1市を除く）において、2020年5月1日から11月30日までの期間に実施された長寿健康診査のデータを用いて、フレイルリスクのある後期高齢者の現状と特徴について検討するとともに、愛知県医師会のフレイルに関する取り組みを紹介する。

長寿健康診査のデータ解析では、愛知県内における後期高齢者約98万人の内、2021年2月末日までに、愛知県後期高齢者医療広域連合に各市町村から提出された約18万件のデータを用いた。

解析にあたっては、「基本チェックリスト」に準じてフレイルリスクを点数化し、ハイリスク群、リスクあり群、ローリスク群の3群に分類し、年齢別、男女別の分布を検討し発表する。

また、質問票の回答から、身体的フレイルリスク群、認知的フレイルリスク群、社会的フレイルリスク群を定義し、各群間の関係とBMI、血清アルブミン値、血色素量、推算糸球体濾過値（eGFR）との関係を検討し発表する。

さらに、今回のセッションのテーマでもあるオーラルフレイルリスク群を定義し、認知的フレイルリスク群との関係、各検査データとの関係も同様に検討し発表する。

最後にオーラルフレイル領域での愛知県医師会の取り組みだが、2018年から歯科医師、言語聴覚士、栄養士の協力を得て、医療従事者向けに「摂食・嚥下機能支援に関する研修会」を年2、3回実施している。昨年度はCOVID-19の影響で実技演習はできなかったが、1回あたり平均150人が参加した。

(2021年6月12日(土) 11:20 ~ 12:20 Line A)

[JS-2] 口腔機能低下の実態と関連する諸因子

○内堀 典保¹ (1. 一般社団法人愛知県歯科医師会)

【略歴】

氏 名 内堀 典保 (うちぼり のりやす)

生年月日 昭和27年6月25日生

昭和46年 愛知県立旭丘高等学校卒

昭和53年 愛知学院大学歯学部卒

昭和57年 藤田学園保健衛生大学 (現 藤田医科大学) 医学部大学院修了
(病理学専攻 医学博士号授与)

昭和57年 名古屋市中村区にて開業

[愛知県愛知県歯科医師会関係]

平成15年4月 愛知県歯科医師会理事 (1期2年)

平成19年4月 愛知県歯科医師会代議員 (2期4年)

平成23年4月 愛知県歯科医師会副会長 (4期6年3ヵ月)

平成29年6月 愛知県歯科医師会会長 (現任)

[日本歯科医師会関係]

平成18年4月 日本歯科医師会疑義解釈委員会副委員長 (1期3年)

平成23年4月 日本歯科医師会代議員 (現任)

[賞 罰]

平成24年3月13日 日本公衆衛生協会会長表彰

平成24年10月27日 日本歯科医師会会長表彰

平成26年11月8日 厚生労働大臣表彰

令和2年11月18日 愛知県条例表彰

オーラルフレイルはプレフレイルと位置付けされ、全身のフレイルの要因の1つと考えられている。オーラルフレイルを予防するには口腔機能の維持・改善を促すことが重要である。愛知県歯科医師会は厚生労働省老人保健健康増進事業を受託し、愛知県知多郡東浦町において2018年から2020年までの3年間、65～84歳の地域住民を対象とした口腔機能および筋力や認知機能の測定調査を行った。調査参加者には口腔機能向上プログラムへの参加や口腔機能低下症を周知する冊子の配布を行い、口腔機能向上の知識の周知に努めた。2020年度では口腔機能低下症の発現時期を知るために、40～64歳の歯科医師会会員を対象とした口腔機能検査を行った。また調査以外に、口腔機能の検査と維持・改善をサポートする人材育成研修会の開催や、関連多職種に向けた啓発用映像資料の作成、一般高齢者に向けた家庭や通いの場で活用できる映像資料の作成を行った。

地域住民調査の結果、2018年度の口腔機能低下症該当者率は63.0%であったが、2020年度では36.2%に減少した。自治体における啓発活動が、地域住民の口腔機能の向上を促すことが確認された。個々の口腔機能をみると7項目中6項目で改善がみられたが、口腔乾燥には改善がみられなかった。また口腔機能と全身の関係としては、握力は咬合力 ($r=0.28$) や舌圧 ($r=0.20$) と正の相関を示し、BMIは舌圧 ($r=0.25$) と正の相関を示した。改訂長谷川式簡易知能評価スケールの点数は咬合力 ($r=0.14$)、舌口唇運動 ($r=0.27$)、舌圧 ($r=0.16$) と正の相関を示した。口腔機能は握力や BMI、認知機能と関連があることが示唆された。2020年度の調査では、縦断的な分析により口腔機能と認知機能の因果関係を探る予定であったが、新型コロナウイルスの感染拡大により調査規模の縮小を余儀なくされ、解明には至らなかった。一方でアンケート調査の拡充も行い、口腔機能の自己評価と測定値の結果の違いを検証した。その結果、自己評価では健康であると判断していても、測定値では低下を示した者が多く、自己評価と測定値の結果は大きく乖離していた。口腔機能の把握には客観的な口腔機能測定が必須であることが確認された。

歯科医師を対象とした調査では、40～44歳の者でもすでに7.0%が口腔機能低下症に該当し、50～54歳では

17.3%の者が、60～64歳では27.9%の者が口腔機能低下症に該当した。年齢が上がるにつれ、口腔機能低下者の割合も増加していくことが確認できた。口腔リテラシーが高いと思われる歯科医師においてさえ若い年代からの口腔機能低下が確認されたことから、早期からの口腔機能低下に対する重要性が確認された。

（COI開示：なし）

愛知県歯科医師会倫理審査委員会承認番号 愛歯発第183号

(2021年6月12日(土) 11:20 ～ 12:20 Line A)

[JS-Discussion] 総合討論